

別紙様式

令和5年度 倉橋中学校区研究推進計画

校番30 倉橋小学校
校長名 高越 久美子

- 1 学校教育目標
かかわる つながる 学び続けるひと～未来社会に役立つことを見据え～
- 2 目指す児童生徒像
主体的に学び合い、論理的に表現する児童生徒
- 3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性
後期	構造化され生きて働く概念的な知識を身に付け、自在に活用することができる。	実社会・実生活の中から見出した課題について、多角的・多面的に考察し、論の展開や表現の仕方を工夫して、効果的に自分の考えを表現することができる。	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の課題を自分のこととしてとらえ、自ら計画を立て、協働的に解決に向かい、社会に貢献しようとしている。
中期	学習した内容や方法を正しく理解し、実生活や新たな課題の解決に活用することができる。	実社会・実生活の中から課題を発見し、集めた情報の中から必要な情報を整理・分析して考え、根拠を明確にしながら、筋道を立てて自分の考えを表現することができる。	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の課題を発見し、目標をもって友達と協力しながら解決に向かい、社会とつながろうとしている。
前期	学習した内容や方法を正しく理解し、課題解決に活用することができる。	身のまわりから課題を発見し、集めた情報から考え理由を明らかにしながら、順序よく自分の考えを相手に伝えることができる。	自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを知るとともに、ちがう意見や友達の考えを大切にしながら、身のまわりのことと関わろうとしている。

4 研究主題等

(1) 主体的に学び合い、論理的に表現する児童生徒の育成

～豊かな対話から深い学びへつなぐ授業づくりと自己有用感を高める生活づくりを通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本学園では、令和2年度より、「主体的に学び合う児童生徒の育成～豊かな対話から深い学びへつなぐ『しかけ』の工夫を通して～」を主題に設定し、学力向上部会と生活力向上部会を中心に研究を進めてきた。

その中で、学力向上部会では、各学年・各教科等で研究主題に迫れるよう、授業サイクルにおいて、「考える・学び合う」場面に重点を置き、対話を通して深い学びにつなぐための指導の工夫を「しかけ」として、授業づくりを行った。加えて、9年間で育成を目指す児童生徒の具体の姿を明確にし、カリキュラムマップに基づき、主体的な学びを促す単元開発を行い、「学びのデザインシート」を改善することができた。

その結果、児童生徒が自分の考えを表出する場面が増え、「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしているか。」のアンケートにおいて、肯定的回

答をした児童は88.0%，生徒は81.8%であり，ともに目標値を達成した。主体的に学習に参加し，対話を通して自分の考えを深める児童生徒が増加したことは，研究の成果であると言える。しかし，学力の伸びにつながっているとは言えず，下記に示した「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果及び分析」の通り，課題が明らかになった。特に，「必要な情報を的確に捉え，決められた視点で分析し，自分の考えを論理的に表現する力」に課題が見られる。支援が必要な児童生徒も多いため，個に応じた手立てや授業体制の工夫も必要である。

生活力向上部会では，児童生徒の実態から，自立した生活基盤づくりを目指し，メディア視聴時間のセルフコントロールを促す取組を行ってきた。その結果，「スマホやタブレット，ネットゲーム等は，家庭や学校で決めたルールを守って使用しているか。」のアンケートに肯定的回答をした児童は90.0%，生徒は90.9%であり，ともに目標値を達成した。しかし，生活改善ができていない児童生徒が，固定化されている傾向にある。また，協働し課題を解決していく過程を大切にし，地域や異学年等との交流を行った結果，自尊感情や自己有用感が高まりつつあるが，今後も取組みを継続していく必要がある。

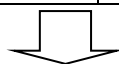
このことから，今年度も引き続き，豊かな対話から深い学びへつなぐ「しかけ」を工夫した授業づくりと，自律と協働により自己有用感を高める生活づくりを通して，「主体的に学び合い，論理的に表現する児童生徒の育成」とすることを旨とし，本研究主題を設定した。

〈令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果〉

	倉橋小学校正答率(全国)【全国との差】		倉橋中学校正答率(全国)【全国との差】
国語	74.0% (65.6%) 【+8.4】	国語	64.0% (69.0%) 【-5.0】
算数	68.0% (63.2%) 【+4.8】	数学	36.0% (51.4%) 【-15.4】
理科	73.0% (63.3%) 【+9.7】	理科	47.0% (49.3%) 【-2.3】

〈結果分析による重点課題〉

	小学校	中学校
国語	<ul style="list-style-type: none"> 長文の概要(人物像や物語の全体像)を把握し，筆者の意図する表現の効果を考えること。 文章の中から必要な情報を的確に捉えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章中の言葉の使い方についての的確にとらえ，比喩，反復，体言止めなどの表現の技法を理解すること。 文章の中から必要な情報を的確に捉えること。
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> 図形を構成する要素に着目して，図形の意味や性質について理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な連立二元一次方程式を解くこと。 図形を構成する要素に着目して，図形の意味や性質について理解すること。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 器具の正しい扱い方を身に付けること。 問題に対するまとめから，その根拠を実験の結果を基にして書くこと。 データをもとに決められた視点で分析して，解釈し自分の考えをもつこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の異なった種類のデータを活用して，総合的に自然現象等の様子や変化を分析し解釈すること。 データをもとに決められた視点で分析して解釈し，自分の考えをもつこと。



※小中一貫の取組

- 文章から目的に合ったキーワードを整理したり，条件に合った文章を書いたりする活動を繰り返す。
- 問題の解き方などの手順や理由を説明する場面で，既習の用語を用いながら，根拠を明確にして表現する活動を繰り返す。
- 教員が児童生徒の思考が深まるようファシリテートする。
- 個に応じた手立てや授業体制を工夫する。

(3) 研究仮説

豊かな対話から深い学びへつなぐ「しかけ」を工夫した授業づくりと、自律と協働により自己有用感を高める生活づくりを行っていけば、主体的に学び合い、論理的に表現できる児童生徒が育成できるであろう。

5 研究内容

〔学力向上部会〕

豊かな対話から深い学びへつなぐ授業づくり

○課題発見・解決の過程を位置付けた単元づくり

(カリキュラムマップと「学びのデザインシート」の活用)

○豊かな対話から深い学びへつなぐ「しかけ」を工夫した授業サイクル

(自己内対話⇒他者との対話⇒自己内対話・ICTの効果的な活用・個に応じた支援)

○言語活動の充実による学びの土台づくり

○授業改善に向けた合同研修，小中接続を見据えた協働授業

〔生活力向上部会〕

自律と協働により自己有用感を高める生活づくり

○小中合同行事の充実（よさを認め合い，学びを共有）

○地域や異学年等との交流の充実

(地域との関わりを大切にした活動，

施設一体型小中一貫校ならではの日常的な交流)

○主体的な生活改善（セルフコントロール）に向けた取組（目標設定と振り返り，評価）

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
①児童生徒の学力が向上したか	標準学力調査 (小：国語・算数) (中：国語・数学)	(小) 全国平均を上回る学級(教科)の割合 (中) 設定目標値を達成した学級(教科)の割合	(小) 75.0% (中) 25.0%	(小) 80%以上 (中) 75%以上
②主体的に学び合い，論理的に表現することができたか ア表現に関すること イ協働に関すること	児童生徒アンケート 教員アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合 教員の肯定的評価の割合	<u>児童生徒</u> (小) ア 87.0% イ 88.0% (中) ア 79.5% イ 81.8% <u>教員</u> (小) ア 100% イ 100% (中) ア 100% イ 87.5%	(小・中) <u>児童生徒</u> 85%以上 <u>教員</u> 90%以上
③児童生徒の自己有用感 は向上したか ア自尊感情 イ自己有用感	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	(小) ア 77.1% イ 80.0% (中) ア 86.3% イ 79.5%	(小・中) 85%以上
④生活改善をすることができたか セルフコントロールに関すること (R5版)	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	(小) - (中) -	(小・中) 80%以上

※標準学力調査は12月に実施する。

※児童生徒アンケート・教員アンケートは7月・12月に実施する。

アンケートの具体例 ※ () は教員用

②ア「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。(させています。)」

イ「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしています。(させています。)」

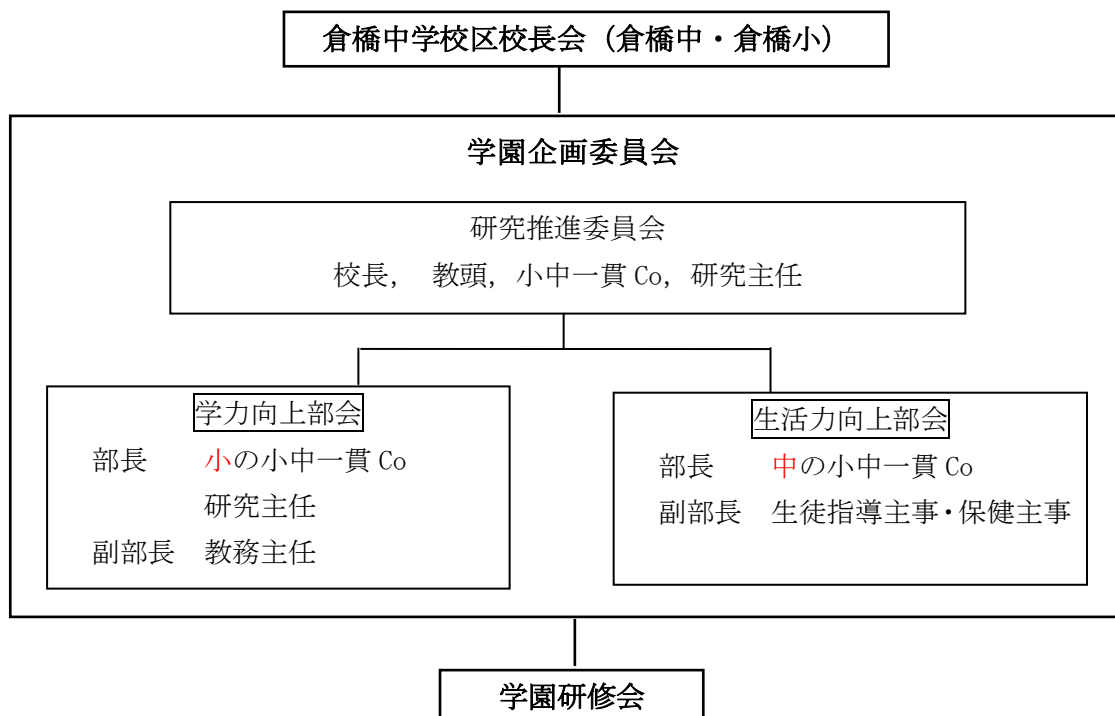
③ア「自分には、よいところがあります。」

イ「自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。」

④「スマホやタブレット、ネットゲーム等は、家庭や学校で決めたルールや時間を守って使用しています。」(R5版)

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施

乗り入れ授業等 (中→小)

対象学年：第5・6学年 (各学年あたりの時数)

- ① 体育科 (第5学年 10時間, 第6学年 10時間)
- ② 算数科 (第5学年 6時間, 第6学年 6時間)
- ③ 理科 (第5学年 10時間, 第6学年 10時間)
- ④ 図画工作科 (第5学年 6時間, 第6学年 6時間)
- ⑤ 外国語科 (第5学年 6時間, 第6学年 6時間)

8 推進計画

月 日	研修内容	
	倉橋中	倉橋小
4月11日(火)	全体研修(今年度の方向性の確認)	
5月	授業研究	
6月21日(水)	全体研修(中学校授業) 講師 広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 木下 博義 先生	
6月	授業研究	授業研究
7月	授業研究	授業研究
8月21日(月)	全体研修(理論研修) 全国学力調査結果の分析に基づいた方策	
9月	授業研究	
10月16日(月)	全体研修(小学校授業) 講師 広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 木下 博義 先生	
10月	小中一貫だより作成 第1号(担当:小)	
11月	授業研究	
1月	授業研究	
2月21日(水)	全体研修(今年度の成果と課題, 次年度に向けて)	
3月	小中一貫だより作成 第2号(担当:中)	

※ 全体研修の前には、学園企画委員会(研究推進委員会, 学力向上部会・生活力向上部会)をもって、事前協議・準備を行う。

9 その他

- ・小中一貫だより(年2回発行予定)
- ・小中合同行事(運動会, 桂浜清掃, 避難訓練 等)

※研究構想図、カリキュラムマップを添付する。